

原爆体験の紙芝居作りに挑戦中です！

21世紀はITの時代といわれているが、四半期たった今の世界は超スピードでAIへと移行しつつある。同時に核兵器の分野でもAI化が進み、その破壊力はヒロシマに落下された原子爆弾の何千倍(?)もの威力を持つ無人弾道ミサイルにかわっている。お互いに実射されれば世界の1/3が核の影響を受けて地球はやがて破壊されてしまうという、信じられない凶器である。

私は8歳の時小学校の校庭で被爆したが、幸い木の下で遊んでいたので何の怪我もなく甲状腺機能亢進症を除いて大きな病気にかかったことはない。87歳の今日まで生きているというより"奇跡的に生かされている"と言ったほうが良いかもしれない。

2011年、東日本大震災で地震と津波によってもたらされた福島原発事故のテレビ・ニュースをカナダで見たときの驚きは、ヒロシマに原爆が落ちたとき以上の衝撃であった。それまでは自分が被爆者であることを殆ど意識しないで、雄大なカナダの自然美溢れるバンクーバーで、家族4人と共に平凡な生活を送っていた。しかし、その時突然、そうだ、私は被爆者として核の恐ろしさをカナダ人に伝えなくては!との思いが与えられたのでした。

2013年、「忘れないでヒロシマ」を自費出版、その後家族や友人の協力によって英語版の”HIROSHIMA MEMORIES OF A SURVIVOR”をAmazonから、引き続き2017年には、改定日本語版の「忘れないでヒロシマ」を元広島市長、村岡 敬氏のご協力を得て故郷広島の南南社から刊行した。以来これらの本を元に、カナダの小、中、高校生に「被爆者の語り部」を始め、一般にはコミュニティー、教会、図書館ほか、興味ある読書グループの人たちと語りあっている。

カナダの学生たち(日本は児童、生徒、学生と分けるがカナダは小学校から大学まで一律に"学生"とよぶ)の感想は、一発の爆弾で十数万人が死んだ、広島は町は焼け野原となった、あるいは原爆病で苦しんでいる人がたくさんいるといっても現実的に理解できないようだ。アメリカの援助隊のような兵士はいたが、自ら手を上げて相手国と戦争をしたことがないカナダでは致し方のないことかもしれない。でも「貴女は奇跡の人ね」「カナダに来てよかったね」「いつまでも健康で長生きしてね」「勇気をだして話してくれてありがとう」「これからも多くの人に語ってね」などと励ましてくれる。

平和については「けんかをしない、他の人をうらやましく思わない、家族は愛し合い助けあっていく。世界の人とPCで友達になる。いろいろ国へ行ってみるなどなど、これらはとてもよい考えだけど実際に実行するのはかなり難しい」と率直に述べている。私の証言活動は、大きな組織に所属しているのではなく、家族や友人の協力に支えられた小さな種のようなものだ。この一粒の種がやがて大きな花を咲かせることが出来るように命のある限り続けていきたい。

被爆体験者が年と共に少なくなっている現今、平和の種を2世、3世に継続してもらおうと私は目下、8歳の「サッチャンのおはなし」と題して原爆体験の紙芝居を作成中である。この紙芝居は英語と日本語でカナダ、アメリカ、日本の他、多くの国の将来を担っていく若い世代向けである。種は小さなものでも、この種が人の心から芽を出して、次に茎、枝が出て核兵器のない社会が実現する平和の花が咲くようにとの夢を託している。